

平成 30 年度 第 2 回高知市総合教育会議 議事録 (概要版)

- 1 日 時 平成 31 年 1 月 28 日(月)  
開会：午後 1 時 30 分 閉会：午後 3 時 00 分
- 2 開催場所 たかじょう庁舎 6 階人事課会議室
- 3 出席者
- (構成員) 高知市長 岡崎 誠也  
高知市教育委員会 教育長 山本 正篤  
委 員 谷 智子  
委 員 西森 やよい  
委 員 野並 誠二  
委 員 森田 美佐
- (事務局) 総務部長 大野 正貴  
総務部市長公室政策企画課長 西成 英丈  
総務部市長公室政策企画課長補佐 西森 文彦  
総務部市長公室政策企画課総合政策担当係長 井上 祐幸
- (市長事務部局)
- 高知市副市長 吉岡 章  
高知市副市長 中澤 慎二
- (教育委員会事務局)
- 教育次長 弘瀬 健一郎  
教育次長 高岡 幸史  
教育政策課長 和田 典子  
教育政策課教育企画監 和田 広信  
教育政策課長補佐 吉本 忠邦  
教育政策課総務担当係長 神岡 純子  
学校教育課長 溝渕 隆彦  
学校教育課学力向上指導監 岡本 伸浩  
学校教育課指導主事 森田 やよい  
高知市立一宮小学校長 福井 りか  
高知市立城東中学校長 藤崎 元司

- 4 議 題 学力向上対策について
- (1) 本年度の学力向上の取組
  - (2) 来年度以降の学力向上の取組

5 議事の経過

- 本年度の学力向上の取組について、教育委員会事務局から【資料4】1～20 ページに沿って説明

- (1) 平成30年度全国学力・学習状況調査の結果について
- (2) 学力向上アクティブ・プランについて
- (3) 高知市立小学校及び中学校の主幹教諭・指導教諭・教諭の年齢別人数について
- (4) 学力向上推進室の取組について

- 議論

(谷委員)

学力向上のための取組は、教育委員会のみならず、学校長を中心に全ての教職員がチームとして取り組む姿勢が大事である。また、全ての学力の基本となる言語能力を鍛えるための取組によって、学校としての考え方が、学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学び」に変わってきていると感じた。

全国学力・学習状況調査の結果を受け、学力向上アクティブ・プランが策定されている。今後はアクティブ・プランをどれだけ徹底して実践できるかが重要である。

(西森委員)

全国学力・学習状況調査の結果を見ると、小学6年生が中学3年生になったときに、同じような推移を示している。小学6年生が中学3年生になるまで何も対策をしなかったのか疑問に思う。対策をされているのであれば、教えていただきたい。

また、学習指導要領が変化している以上、同調査の問題の傾向も変化しており、単純に結果を比較することはできないのではないかと。今後も、求められる学力は変化していくと思われるが、具体的な取組はあるか。

現在の若年層はプレゼンテーション能力に長けている。今後必要な能力であるため、若年教員には持っている能力を発揮していただきたい。

(弘瀬教育次長)

小学6年生や中学3年生だけでなく、他の学年でも学習の到達度の把握調査を行い学力向上対策に取り組んでいるが、課題克服にはつながっていないということだと思ふ。今後更なる取組が必要だと考えている。

また、問題の傾向について、同調査の出題方法は、平成19年度以降、基礎的な問題を問うA問題と、思考力や判断力、表現力を問うB問題という方法で一貫しているため、相対的な分析は可能である。来年度からはA問題とB問題が一体化した出題方法になるため、来年度の取組の中で対応していきたいと考えている。

#### (高知市立城東中学校藤崎校長)

若年教員、特に大学を卒業したばかりの教員は、今後求められる授業のスタイルをしっかり学んできていると感じる。子どもたちの現状を把握するという点に関しては、経験のある教員が指導するため、若年教員には授業づくりに関して新しい知識や発想を出すことが期待されている。

#### (高知市立一宮小学校福井校長)

若年教員には、現場において持っている知識を上手くいかすことができるかどうかを重要だと指導している。どのように子どもの声を聞き、聞いた声をどのように自身に取り入れるかということが、若年教員の課題である。

#### (森田委員)

親としても子どもの学力向上のために支援をするべきだと感じて、どのように支援をしたら良いかが分からないのではないかと。例えば保育園や幼稚園での「おたより」には、食事や遊びの意味や子どもの遊びを見守る際の注意点が記載されており、大変参考になっていた。同じように簡単な助言で構わないので、子どもの学習について学べる機会があると良い。

教科会について、参加できない教員のために、教科会で出た情報を積み重ね、過去の情報を見られるようなものがあるとより良いと思った。そのようなものがあれば、先輩教員が行ってきたことの情報を蓄積することもでき、今後の取組にいかせる。

また、学力向上を議論する際には、どのような学力を向上させたいのかという点が重要である。知識をひたすら詰め込むことが、求められている学力ではないと思う。今後の社会で子どもたちがどのように生きていくか、そのためにはどのような学力を身につけるべきなのかを考えるべきである。

#### (野並委員)

私が通っていた小学校では、想像力を育てるための様々な試みがあった。例えば、創作ダンスや本の読み聞かせである。そのような想像力を育てるための取組は、どのように行われているのか。

#### (高知市立一宮小学校福井校長)

社会科と理科が統合した生活科では、地域社会や自然について子どもたちが自分で考え、経験しながら学んでいる。読み聞かせについても実施しており、自由な発想で子どもたちに本を紹介してもらうこともある。

保護者への学習方法等の助言については、保育園や幼稚園と連携し、小学校に入学する前に話をすることができれば良いと思った。保護者からの「困った」という声から生まれてくる気付きを大事にし、今後の学校教育につなげていきたい。

#### (岡崎市長)

保幼小連携については、ここ数年間で強化されてきたため、今後にしっかりとつなげていきたい。

- 平成31年度以降の学力向上の取組について、教育委員会事務局から【資料4】21ページ及び【資料5】に沿って説明
- (1) 学力向上アクティブ・プランについて
- (2) 高知市学力向上推進室による訪問について

#### (谷委員)

若年教員を育てるのは配置校である。毎日勤務する配置校で、先輩教員にどのような指導を受けるかということが重要であり、管理職及び主幹教諭には指導力が求められる。若年教員の育成について今後の見通しをお聞きしたい。

また、学力向上対策には生活習慣の視点が非常に重要である。生活習慣及び運動習慣が身につけている子どもは、学力も高い傾向がある。学校として、今後どのように取り組んでいくのか。

#### (学校教育課岡本学力向上指導監)

若年教員の育成については、教科会を充実させることが重要な取組の一つとして挙げられる。現在、この教科会に指導主事が定期的に訪問し、一緒に授業をつくり、改善及び検討する取組を行っている。今後も県の支援や各学校の協力を得ながら、若年教員の育成に取り組んでいきたい。

#### (弘瀬教育次長)

生活習慣については、指導主事が全ての学校を訪問し、学校経営計画を策定する校長と今後の目標や取組について協議しているところであり、学校経営計画の中に、生活習慣や運動習慣等の視点を取り入れているか確認していきたい。

**(高知市立城東中学校藤崎校長)**

生活習慣については、養護教諭が年2回アンケートを実施している。今後も生活習慣及び運動習慣への啓発を強めていきたい。

**(高知市立一宮小学校福井校長)**

小学校でも同様に養護教諭がアンケートを実施している。子ども自身に早寝早起きの大事さに気付いてもらう取組を行っている。

**(弘瀬教育次長)**

本年度より中学校給食が開始したため、給食と併せて食育の取組を進めていきたい。

**(森田委員)**

きちんとした生活習慣や良い人間関係の中でこそ子どもは安定し、その上で学力という話になるため、生活習慣は非常に重要である。しかし、現代社会では保護者が時間に追われており、子どもにゆっくり朝食を食べさせる余裕がないという現状がある。例えば、子どもが自分で朝ごはんを作れるように、家庭科で教えるなどの取組をしても良いのではないかと。

また、高知大学教育学部には教科指導の教員がおり、国語教育学や算数教育学を研究している。大学と小学校や中学校が連携し、授業での疑問点などを気軽に尋ねられる場があると良いと思う。

**(西森委員)**

学校がしようとしていることを保護者に発信し、理解を求めることが大事である。保護者が子どもの頃に求められていた学力と、現在の学力は異なっている。その点について保護者の理解が必要である。

また、学校には家庭ではできないことを行ってほしいと考えている。例えば、家庭では人間の生死や社会の理不尽に向き合うような内容の本の読み聞かせは困難である。社会で生きていく上で向き合うべき「重いもの」を学校が子どもに与えるということも、学校が担っている役割ではないかと。

**(野並委員)**

知識だけでなく、子どもの将来のことを見据えた教育を行っていただきたい。自分の将来の目標を早期に持ち、その実現のために勉強をしようと思えるような体験や経験が授業の中でできるようになることを希望する。

**(山本教育長)**

学力向上推進室から指導主事が教科会へ参加するようになっているが、指導主事が来たからそれで良いということではなく、学校側が積極的に連携し、学力向上推進室の指導主事がいなくてもPDCAサイクルを維持できるようになることが重要である。

また、来年度より導入する校務支援システムの掲示板機能を活用し、教員間で情報共有しながら、学力向上推進室と学校の連携及び教育委員会の支援を充実させ、高知市の学力向上を更に目指していきたい。

**(岡崎市長)**

お忙しい中、皆様に様々な視点でご意見をいただいた。本日いただいたご意見を学校現場でいかすことができるように、「チームとしての学校」として、総合的な取組を進めていきたい。

● 閉会